

Citation: Alfirevic Z, Neilson JP. Doppler ultrasound for fetal assessment in high risk pregnancies. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 1996, Issue 4. Art. No.: CD000073. DOI: 10.1002/14651858.CD000073.

CRG名: Pregnancy and Childbirth

英語版最終改訂年月: 22 February 1996

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 4; -

背景: 超音波ドップラーでの異常波形は胎児の予後不良を示唆しているようである。また、超音波ドップラーは不適切な早期分娩を助長する可能性もある。

目的: 本レビューは、高リスクの妊婦を対象として産科的ケアおよび胎児アウトカムに対する超音波ドップラーの効果を評価することを目的とした。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group trials registerを検索した。最終検索日は2001年6月であった。

選択基準: 高リスクの妊婦を対象に、臍動脈の波形を検討するために超音波ドップラーを無超音波ドップラーと比較していたランダム化試験。

データ収集と分析: 2名のレビューアが試験の質を評価し、データを抽出した。その後追加された情報については、研究著者に問い合わせた。

主な結果: ほぼ7000名の女性を対象とした11件の研究を選択した。試験の質は全般的に良好であった。無超音波ドップラーと比較して、高リスクの妊婦(特に高血圧または推定胎児発育障害を合併する妊産婦)に対する超音波ドップラーは、周産期死亡を減少させる傾向にあった(オッズ比0.71、95%信頼区間(CI)0.50~1.01)。超音波ドップラーの使用により、分娩誘発が減少し(オッズ比0.83、95% CI 0.74~0.93)、入院回数が減り(オッズ比0.56、95% CI 0.43~0.72)、有害作用の報告例もなかった。分娩中の胎児切迫仮死(オッズ比0.81、95% CI 0.59~1.13)や帝王切開(オッズ比0.94、95% CI 0.82~1.06)に差は認められなかった。

レビューアの結論: 高リスクの妊婦に対して超音波ドップラーの使用は産科的ケアのいくつかのアウトカムを改善させるようであり、周産期死亡の減少を助ける上で有効であると考えられる。

(監訳 長田知恵子)

翻訳公開日: 09年2月24日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。